農業の担い手通信

北海道帯広農業高等学校農業の担い手育成対策協議会

NO１　令和元年７月 18 日発行

帯広市稲田町西１線９番地
TEL 0155-48-3051
FAX 0155-48-3052
URL　http://obino.hokkaido-c.ed.jp

総会が無事に終了

５月 22 日（水）、北海道帯広農業高等学校農業の担い手育成対策協議会（以下協議会）の総会が、農協連ビル大会議室で行われました。当日の総会では、平成 30 年度事業報告や令和元年度事業計画等について審議を行い、全ての議案が承認されました。昨年度は ASIAGAP や共進会、海外研修等に助成金が活用され、充実した教育活動が展開されました。



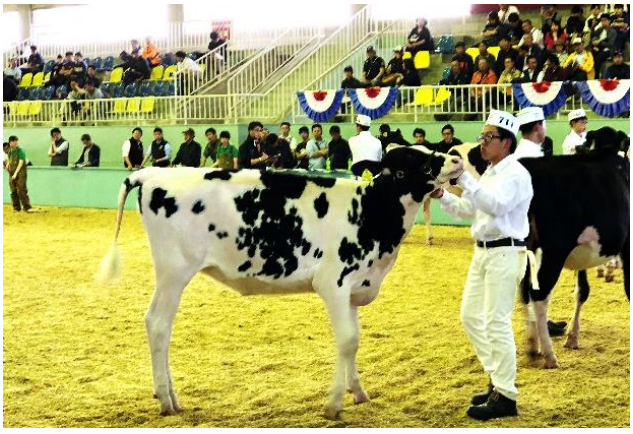
ASIAGAP 学習会



５月 17 日（金）帯広農業高校の育成寮で、ASIAGAP 学習会が行われました。農業科学科１年生から３年生までの３クラス 118 人が出席し、GAP についての学習、ASIAGAP 取得までの流れ、クイズなどを通じ GAP についての知識を学び、農業科学科全員で GAP への理解を深めました。学習会に参加した生徒は、「１，２年生がこの、学習会をとおして GAP 取得に一緒に取り組んでくれると、嬉しいです」と感想を述べていました。

全道Ｂ＆Ｗショウに参加して

５月 25 日（土）26 日（日）の２日間、安平町で 2019 年北海道ブラックアンドホワイトショウが開催されました。帯広農業高校からはホルスタインクラブの生徒が 20 名参加し、育成牛を４頭出品しました。大会の結果は、リードマンコンテストと一般の部において上位に入賞し、出場した生徒は「私達に牛を貸して下さった酪農家の皆様有難うございました。リード技術を上げて、酪農家の皆様の期待に応えられるように頑張ります。十勝の共進会から様々な面で酪農家の皆様、農協職員の方にお世話になりとても感謝しています。ありがとうございました」と感想を述べていました。





JA 帯広かわにし施設見学

６月 13 日（木）、帯広農業高校の農業科学科３年生が JA 帯広かわにし別府事業所と西帯広事業所の施設を見学しました。

～生徒のコメント～

私は、宇宙と十勝農業のコラボレーションが、ここまで進んでいるとは、正直思ってもいませんでした。十勝産小豆を使用した赤飯が、海外を飛び越えて宇宙までいくことを知った時は驚きとともに、同じ十勝の生産者として誇らしく感じました。

家に帰って赤飯を食べてみました。宇宙で食べるのでかなり加工をされており、味もそれほどではと思いましたが、とても美味しく、宇宙でも美味しく食べることができると思いました。

ナガイモ選果場は、HACCP や SQF 認証を取得しているので、とてもきれいに整理されていました。認証を取得するという意味を五感で感じることができました。私は、将来生産者になりますが、誇りをもって農業生産に取組、十勝の農業の活性化に貢献できるように頑張ります。

今回は施設見学をさせていただき有難うございました。





北海道帯広農業高等学校長より

年号も変わり、協議会も２年目の運営に入ってまいります。５月の総会では、令和元年度の事業内容についてご承認をいただきまして、ありがとうございます。

今年度も、ＧＡＰ、ＨＡＣＣＰ教育の推進、海外実習派遣の補助、共進会参加の補助等、農業の担い手育成事業に活用させていただきます。

さて、全国農業高校の後継者の輩出調査で帯広農業高校は、５割と報告させていただいております。平成３０年度の卒業生は、５学科ある中で、農業科学科、酪農科学科の自営学科２クラス８０名中４２名が、将来十勝の農業経営者となる予定です。（平成２９年度は４３名、平成２８年度は４０名）この５割の細部内訳は、高卒で直ぐ就農２０％、進学後（農業大学校、四大、短大）就農６０％、関連企業就職後就農２０％となっています。他の農業高校が、就農率１０％以下という状況の中、１，２００％の食糧自給率を誇る十勝は、農業の経営基盤がしっかりしているからこその結果だと思います。

３年間で農業の担い手として多くの事を考えられる学習環境を提供し、十勝の農業経営が更なる発展につながるように取り組んでまいります。

今後とも、協議会運営に対しまして、ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度の取組

・ＡＳＩＡＧＡＰ（２年目維持審査）、ＨＡＣＣＰへの取組
・海外・国内委託実習（アメリカ、ハワイ、ニュージーランド）
・共進会等への参加（十勝・全道 B&W）
・農業講演会（全道農業関連部会交流会 in とかち）
・地域農業視察（JA 帯広かわにし農業施設）
・資格取得（ドローン講習会、ｱｸﾞﾘﾏｲｽﾀｰ顕彰）

